



毎年、春になると全国一斉に学校検尿が始まります。検尿は子どもの腎臓病を無症状の段階で発見するために行われており、大きな成果を上げています。腎臓病の早期診断、早期治療に欠かせないものです。子どもの腎臓病は早く見つけて適切な治療すると治療することが



徳島大学医学部小児科
香美 祥二教授

学校検尿で腎臓病を早期発見

ります。今回は、いよいよな子どもの腎臓病に早く気づくために知ってもらいたい知識や体に現れる注目すべきサインについて説明します。

腎臓病発見の基本は、毎年必ず子どもに検尿検査を必ず実施させることです。体を動かすと尿に血液中の蛋白質が出てくるので、朝起きてすぐに取った尿を学校に提出していただきます。こぼり入ると検査結果を渡されるので何か異常を指摘されたのなら、近くの小児科の先生に診てもらい、再検査を受けてください。

い。診断のための精密検査や治療が必要な時は小児腎臓専門医が診察している病院（徳島大学病院小児科など）を紹介してくれます。毎年の学校検尿で腎臓病に罹患した子どもの多くが無症状の時期に発見されています。

日頃の生活で注意することとしては尿の色の変化です。コカコーラのような黒褐色尿が見られた場合、急性腎炎の発病や慢性化する腎炎の増悪が疑われます。また、尿が泡立ち、にごりや血尿、尿が濁ることになり、これも腎臓病を疑う必要があります。尿に大量の蛋白質が混入していること泡立ちの目安です。

多いのです。

腎臓は体の血液を濾して老廃物を尿として捨てる装置が、病気になることで濾過する装置が壊れて尿に赤血球や蛋白質などの血液成分が混入します。検尿検査はこの尿中混入物を調べ、腎臓病が悪化、進行しているかどうかを判断し、適切な治療を受けることができます。

今日、子どもの腎臓病の多くは適切な診断と治療を受けることができます。むくみ（浮腫）、頭痛（高血圧）、顔色不良（貧血）などの症状が出て疲れやすくなり発育も止まります。この段階では普通の学校生活を送れる時代になり、適切な治療を受けることで発育も止まりません。この段階では内服薬の効果は無く、透析や腎移植を受けないと命も危うくなる